

本年度の総題 『後期水戸学と藤田幽谷』について

水戸史学会会長 名越時正

昨年の講座は『藤田東湖』を主題としたが、大きな問題を残した。後期水戸学を担った東湖先生や烈公の活躍は偶然の奇跡なのか。或いはその前に、義公薨後百年近い停滞、腐敗を嘆じて義公精神を継承復活した改革的人物がなかったのか。後期水戸学を知るには、改革以前の時代と人物を知らねばならない。

中でも東湖先生の父幽谷先生は、水戸城下の商人の次男に生まれたが、幼時神童と謳われその名天下に響いた。早く立原翠軒に入門して史館に入り、蒲生君平や高山彦九郎の激励を受け、松平定信公からは文章の提出を求められると『正名論』という大文章を一気に書いた。

その生涯は必ずしも順調ではなかったが、私塾青藍舎を開いて優れた人材を育成し、「修史始末」を著わして修史事業の根本を正し、あるいは、数度の封事を提出して藩政のさまざまな問題の改革革新の方策を提言するなど、いずれも次代の方向をあざやかに指し示すものであった。幽谷先生は志し半ばにして五十三歳で没したが、その志は一子東湖先生をはじめ幾多の優れた門人に引継がれ、斉昭公による大改革へと展開したのである。その故に、後期水戸学の生みの親は実にこの藤田幽谷先生といわなければならない。

今年の講座は、この藤田幽谷先生の生涯と事蹟を尋ね、その志業を掘り下げ、以ていわゆる後期水戸学の根源を探ることを主題とする。